

< 翻訳 >

## 東干族の言語文字の学習と使用の問題<sup>訳注1)</sup>

胡 振 華<sup>訳注2)</sup>

犬 塚 優 司 訳注

1. 多民族国家における族際語、バイリンガル、マルチリンガルの問題
2. 中央アジア各国の民族言語文字政策
3. 東干族の言語文字と中国の中国語・中国文
4. 東干の学校において中国語・中国文を学ぶ問題
5. 東干の学校において中国語・中国文を学ぶことについての何点かの具体的提案

中央アジア各共和国の東干族人民は、みな、19世紀後半に中国西北回族の農民蜂起が失敗した後、中央アジアに3回に分かれて次々と移ってきた人々である<sup>訳注3)</sup>。100年以上、中央アジア各共和国の東干族人民は、ずっと各国の各民族人民と友好的に生活をともにし、農業生産を発展させ、十月革命<sup>訳注4)</sup>、大祖国戦争<sup>訳注5)</sup>と第二次世界大戦後の経済建設に積極的に加わり、貢献をなし、政治、経済、文化の各方面においても発展してきた。中央アジアに現れた民族英雄マガジー・マサンチ (Magazy Masanqi M. 馬三成)<sup>訳注6)</sup>、詩人であり作家でもあるヤスル・シヴァジー (Jasl Shyvazy 雅斯爾・十娃子)<sup>訳注7)</sup>、歴史学者ムハメド・スシャンロ (Muhammed Sushanlo 蘇尚洛)<sup>訳注8)</sup>、ユスポフ・イリヤス・イスマイロヴィッチ (Jusupov Ijas Ismailovich 依里雅斯)<sup>訳注9)</sup>、言語学者ユスプ・ヤンシャンシン (Jusup Jangshansin 楊善興)<sup>訳注10)</sup>、ツンヴァジー・ユスプ (Tsunvazy Jusup 宗娃子)<sup>訳注11)</sup>、アブドゥラフマン・カリモフ (Abdurahman Kalimov カリ莫夫)<sup>訳注12)</sup>、言語学者兼作家ムハメド・イマゾフ (Muhammed Imazov 依瑪佐夫)<sup>訳注13)</sup>、民俗学者シンロ・ロジャー・タイロフナ (Shinlo Lodzar Tairovna 辛勞)<sup>訳注14)</sup>、民間文学者ユスロフ・ハサン・ユスロヴィッチ (Jusurov Hasan Jusurovich 優蘇勞夫)、文学評論家ファティマ・マケーヴァ (Fatima Makeeva 法提瑪)<sup>訳注15)</sup>、詩人イシャル・シシル (Ishar Shysyr 十四兒)<sup>訳注16)</sup>、短編小説作家ビザングディ・アルサ・スロヴィッチ (Bidzangujdi Arsa Nurovich 白掌柜的)、歌手ムフタロフ・フサイン・ムフタロヴィッチ (Muhtarov Husajn Muhtarovich 穆合塔勞夫)、画家パンシェフ・ムハメト・ウマル・サリゾヴィッチ (Panshev Muhamet — Umar Salizovich 潘舍夫)<sup>訳注17)</sup>、技術教授バキロフ・ラシド・バキロヴィッチ (Bakirov Rashid Bakirovich 巴基勞夫)<sup>訳注18)</sup>、作曲家武術家兼社会活動家キルギス東干協会主席イエシン・イスマイル (Yesin Ismail 葉辛)<sup>訳注19)</sup>、企業家兼社会活動家カザフスタン東干協会主席ダウロフ・フセ・シマロヴィッチ (Daurov Huse Shimarovich 達吾勞夫)、歴史学博士兼社会活動家ウズベキスタン東干協会主席マネ・ダヴロフ (Mane Davurov 馬乃)、及び世界に東干の人物を

紹介し二冊の著作を編著出版した教育学者マリヤ・ナビエヴァナ・ヴァンスバノヴァ女史（Marija Nabievna Vansbanova 瑪麗婭）など多くの著名人は、みな中央アジア東干族人民のために栄光を勝ち取り、また中央アジア各国のために貢献した。ここに心を込めて敬意を表する。

私は山東省青島市に生まれた。回族である。今年73歳になった。私の民族所属と出生地のため私は小さい頃から中国語以外の言語と接触した。過去の回族の伝統習慣に従って、私は小学校の時、放課後回族のモスクへ行きアホンについてアラビア語と『コーラン』の最も基本的な経文の段落を学び、その他に武術を学んだ。青島市は抗日戦争期に被占領地区<sup>訳注20)</sup>であったために、私たちは小学校から日本語を学び始めた。青島市は港湾都市であり、外国人が多く、日本人の他にも常住する外国人にはロシア人、朝鮮人などがいた。新中国成立前、私が中学高校と大学で学んだのは、英語とアラビア語であった。新中国成立後、私はまずロシア語を何年か学び、その後またウイグル語を学んだ。1953年就職後学んだものにキルギス語、トルコ語などの言語がある。私は就職後国内で外国人留学生に基礎中国語を教え（1965～1966年）、海外でも外国の学生に中国語と中国文化の課程を教えた（1986～1987年）ことがある。これまで、私の仕事は、ずっと言語学と民族語学文学の教育研究であり、バイリンガルあるいはマルチリンガルと密接に関係した仕事であった。私の仕事がまさにバイリンガルな仕事であると言うことができるであろう。また、前世紀50年代に恩師である馬学良教授<sup>訳注21)</sup>、王均教授<sup>訳注22)</sup>の関心、啓発、指導の下、当時の中央民族学院が言語学研究グループでの授業に招いたソ連の言語学専門家、科学アカデミー会員G. P. セルジュチェンコ（G. P. Serdjuchenko G. P. 謝爾久琴珂）教授の直接の指導と援助の下、東干族の言語、文化、歴史と民俗の学習と研究を始めた。私は1989年から13回中央アジアへ行き、各共和国の東干地区を訪問し、中央民族大学においては何名かの東干学の博士を養成した。2004年1月に定年退職の手続きをしたが、今も我々の大学の東干学研究所所長を務めており、継続していくつかの関係する研究活動に従事している。昨年我々の大学の東干学研究所と中国少数民族双語教学研究所以は北京市において共同で成功裏に中央アジア東干双語国際学術研究討論会を開催し、とても良い成果を上げた。現在カザフスタンで開催されているこの会議を、私は昨年の東干双語国際学術研究討論会の継続であると考えている。私がここで我々の大学の東干学研究所を代表して、会議に出席している各国の専門家の皆様に、心からご挨拶申し上げることをお許し願いたい。また、各国の専門家の皆様が、私たちの研究所にいらっしゃり交流することを歓迎する。

以下、中央アジア東干族人民の言語文字の学習と使用に関する問題を中心にいくつかの観点を発表する。

## 1. 多民族国家における族際語、バイリンガル、マルチリンガルの問題

世界には多くの他民族の国家があり、中国と中央アジア各国はみな多民族国家である。中国には56の民族がおり、カザフスタンには130以上の民族がおり、キルギスには80以上の民族がおり、ウズベキスタンにも多くの民族がいる。多民族国家には多くの種類の言語がある。社会の発展のために、各民族は密接に交流を行わなければならない。それには各民族みなが用いてコミュニケーションできる一つの言語を道具にしなければならない。このみなに公認された言語が、すなわちその国の「族際語」である。中国語は中国では族際語

である。ロシア語は中央アジア各国では族際語であり、カザフ語はカザフスタンの国語であり、キルギス語はキルギスの国語であり、ウズベク語はウズベキスタンの国語である。中国では、少数民族の人は彼ら自身の母語ができるだけでなく、中国語もでき、このような二つの言語ができる現象を「バイリンガル」と言う。中には自分の母語ができるほかに外国語あるいはその他の少数民族の言語ができる人もおり、このような何種類もの言語ができる現象を「マルチリンガル」と言う。中央アジア各国ではバイリンガルとマルチリンガルの人は多く、東干人はみな東干語とロシア語ができるようであり、多くはカザフ語あるいはキルギス語、ウイグル語もでき、ドイツ語あるいは英語もできる人もいる。東干族人民はなぜ今日のこのような発展があるのであろうか。私は、これは、東干族人民が二つの言語あるいは何種類もの言語を操ることができることと、とても大きな関係があると考ええる。この歴史の経験は東干族人民の今後のさらなる発展にとって重要な参考となり、私たちはこの経験をしっかりと心に刻まなければならない。

今の世界は既に経済的に一体化した情報時代に入り、人口的に比較的少ないそれぞれの民族は、時代の発展についていき、時代の流れとともに進みたいと考え、その民族の言語を使用し発展させるのと同時に、できるだけ速くできるだけうまく族際語とその他のその民族の発展に有利な言語文字を身につけようとしている。時代は変わり、状況は変わった。新たな形勢のもと、言語文字の学習と使用面に関する東干族人民の活動はいかに発展させていかねばならないか。母語の他にどの一つあるはいくつかの言語文字を身につけなければならないか。これは確かに一つの重要な問題なのである！

## 2. 中央アジア各国の民族言語文字政策

各多民族国家は、その国の民族と民族言語の実際の状況に基づいて自己の民族言語文字政策を策定している。カザフスタンでは1995年に成立した『憲法』の中に次のように書かれている。

「第七条（1）カザフ語はカザフスタン共和国の国語である。（2）国家組織と地方自治機関では、ロシア語はカザフ語と同じく平等に公式に使用される。（3）国家は、カザフスタン人民が各種の言語を学習し発展させるために、条件を整えるよう努力する。」

「第十九条（2）それぞれの人は、みなその民族の言語文字を使用する権利、およびコミュニケーション、教育、学習及び創作の言語を自由に選択する権利を有する。」

以上の条文の精神に基づいて、私たちは以下のように理解することができる。

1. カザフ語はカザフスタン共和国の国語であり、カザフスタン共和国の各民族公民はカザフ語を学ばなければならないとされている。
2. ロシア語は族際語であり、カザフスタン共和国内ではロシア語とカザフ語は同じく、公用語<sup>訳注23)</sup>である。
3. カザフスタン共和国内の各民族は、みな自己の言語文字を使用し発展させる権利を有している。
4. カザフスタン共和国内の各民族は、その他（国内国外を含む）の民族言語を学習し使用する選択の自由を有している。

キルギスの『憲法』<sup>訳注24)</sup>においても、次のように書かれている。

「第五条（1）キルギス語はキルギス共和国の国語である。（2）キルギス共和国は共和

国住民が使用するロシア語及びその他の一切の言語を保持し、平等に自由に発展させることを保証し、その言語に機能を発揮させることを保証する。（3）国語を知らないあるいは国語を身につけていない故に、公民の権利と自由を侵害することを許さない。」

ウズベキスタンの『憲法』<sup>訳注25)</sup>においても類似の条文があり、内容は大きな差はない。

東干族人民の実際の状況と合わせて考えると、私の中央アジア各国の民族言語文字政策についての理解は次のようになる。

1. 大きな都市及びロシアなどの民族と一緒に住んでいる東干人は、その民族の言語の他に、国語及びロシア語を身につけなければならない。
2. 東干人が集住する村では、特に東干族の学校では、東干語を学習し、また国語とロシア語を学ばなければならない。
3. 大都市にばらばらに住んでいる東干人であろうと、村で集住している東干人であろうと、その他の民族の言語（国内国外を含む）を自由に選んで学ぶことができる。

上で述べたことは、いくつかの原則であるが、具体的に実行しなければならず、また科学的な検討を真剣に進めなければならない。同様なことは回族にも言えるが、それぞれの国家において、それぞれの環境下で、その言語文字の学習、使用の状況も異なっている。中国の回族は中国語を学習し使用するほかに、主に彼らと一緒に住んでいるその他の民族の言語を学習し使用している。見たところ、中央アジア各国の東干人は東干語のほかに、ロシア語と関係する国語を学習し身につけなければならないようである。よりよく東干語を学習し使用するために、社会の発展に順応するために、中央アジアの東干人民の中には、中国の中国語・中国文を学習する切迫した要求がわき起こっている。これは正常なことであり、容易に理解できることである。

### 3. 東干族の言語文字と中国の中国語・中国文

カザフスタンの東干人は約4万人おり、キルギスには5万人近くおり、ウズベキスタンには、3000人余りおり、合わせて11万人以上いる。東干族人民はこれまで自己の母語——「東干語」を保存し使用してきた。「東干語」は、中国の中国語陝西方言と甘肅方言の基礎の上に、ロシア語、アラビア語、ペルシャ語及び中央アジア各民族の言語のいくつかの借用語を吸収し、中国国外の中国語の一種の変異体（Variant）<sup>訳注26)</sup>に発展していった。これは現代中国語の標準語、すなわち「プートンホア（普通話）」といささかの差異があるが、あまり大きくはない。なぜなら、これらはいずれも同じ源から出ているからである。それぞれ異なった国家に居住していることにより、周囲の環境もまた異なり、中国の回族は、漢字を使用して自分の言語を記録し（漢字を学習するのに都合がよいため、ラテン文字、漢字拼音方案の字母を用いて漢字を書き留める）、中央アジアの東干族は、前後してアラビア文字、ラテン文字、スラブ（キリル）文字を使用して自分の言語を書き留めた。文字形式から見ると、多くの違いがあり、見てわからないことすらあるが、話を聞いた時には、やはりお互いに多くのことが聞いてわかる。私の見るところでは、中国人が東干語や東干語の文字を学習することは難しくなく、東干人が中国語の「プートンホア（普通話）」や漢字を学習することもまた難しくない。

#### 4. 東干の学校において中国語・中国文を学ぶ<sup>訳注27)</sup> 問題

中央アジア各国の独立に伴い、また中国と中央アジア各国との関係が日に日に密接になるのに伴って、双方の多くの大学で相互に相手の言語を学習する専攻やクラスが開設されてきた。中央民族大学外国語学院には昨年ロシア語・カザフ語専攻が開設され、今年はロシア語・キルギス語専攻が開設された。来年にはロシア語・ウズベク語専攻が開設される。中央アジア各国の多くの大学も中国語の課程を設けており、中国語専攻を開設した大学もある。

中央アジアの東干人民にとって、中国語・中国文を一種の外国語文と見なすよりは、やはりそれを東干語と同じ源である一種の言語としてみて、東干の学校では中国語・中国文を学ぶ<sup>訳注27)</sup> ことができる。この種の措置は中央アジア各国の民族言語文字施策に符合するばかりでなく、中国語・中国文を学ぶ<sup>訳注27)</sup> ことを通して、東干族の青少年世代の東干語能力をさらに強化させた。これは中国と中央アジア各国両国人民の間の伝統的友情にとっても有益であった。私たちは、東干の青少年の中国語レベルの向上に伴い、東干人の就職機会は増加し、東干語を研究する東干学者の学術水準も大いに向上し、東干人が中国と中央アジア各国の交流の中で果たす役割と貢献もまたさらにめざましいものになるであろうと、予想することができよう。

#### 5. 東干の学校において中国語・中国文を学ぶ<sup>訳注27)</sup> ことについての何点かの具体的提案

1. この活動をうまく進めるために、まず広報活動を進めなければならない。それによって、東干族の教師、学生及び学生の保護者に正確な認識を持たせる。共同認識があれば、新しいものを作り出す性質を備えたこの活動は順調に発展するだろう。
2. 中国語・中国文を学ぶ<sup>訳注27)</sup> 各種の準備活動をしなければならない。教員資格保有者、教材、教育要領及び必要な辞書等を準備しなければならない。まず東干の学校に専ら供給し、中国語・中国文を学習するために使用する一揃いの教材を編集し、簡明な『中国語東干語ロシア語小辞典』を編集し、中国語教員資格養成クラスを開設することを提案する。
3. 中央アジア各国における東干協会とキルギス国家科学アカデミー東干学研究部の組織的指導の下、国内国外の東干語研究者を招聘し、東干言語文字工作指導委員会を設立し、定期的不定期的に東干族の言語文字工作問題を協議する。指導委員会の下、教材、教育要領、辞書等を編著するグループを設立する。それぞれの編著グループは計画を策定し、期日通りに完成させる。
4. 東干文の新聞雑誌に、「中国語・中国文を学ぶ」特別欄を設け、毎号関係する知識と具体的な語句や短文を紹介する。

東干族の村の東干の学校で中国語・中国文を教えていくには、初めは必ずや多くの困難があるであろうが、これは榮譽ある創造的な活動である。私はすでに年をとってしまったが、このために力を尽くしたいと願っている。私は次のことを表明する。

1. 私と海峰博士、苗東霞博士は、中央アジア各国の東干人教師と協力して、小辞典と教材の編集活動の部分的な任務を担当したいと思っている。

2. もし半年のうちに別に重要な仕事がない時は、私は私の妻——長年小学校の校長をしていた法提瑪・穆淑恵と一緒に中国語・中国文を一学期間授業するお手伝いをし、この新たに生まれた事物のために貢献したい。

## 訳注

- 1) 本論文は、胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 154頁-160頁に収録された論文であり、2004年8月カザフスタン共和国アルマティ市で開催された東干言語文学国際研究討論会において発表されたものである。
- 2) 胡振华教授は、1931年中国山東省青島市に生まれ、1953年中央民族学院（現在の「中央民族大学」）語文学部ウイグル言語文学系を卒業後、中央民族学院でキルギス語学文学、チュルク諸言語学、中国イスラム文化等の教育と研究に従事し、中央民族大学少数民族語言文学学院教授（博士生导师）を長年務め、2004年冬退職（離休）した。現在、中国突厥語研究会副会長、中国少数民族双語教学研究會顧問などを務め、國務院發展研究中心欧亚社会發展研究所研究員、キルギス共和国国家科学科学院名誉院士、キルギスビシケク人文大学客員教授である。
- 3) 1873年「回民蜂起」が、清の左宗棠軍の肅州攻略により終わった後、白彦虎に率いられた陝西回民の軍隊は新疆に逃れ、ヤクブ・ベク率いるウイグル軍とともに、反乱に参加した。しかし、1877年ヤクブ・ベクを滅ぼし新疆全体を制圧した清軍に追われ、白彦虎と彼に率いられた五千名あまりの軍隊は、ロシア帝国領であった中央アジアに逃れた。
- 4) 1917年11月（ユリウス歴では10月）にロシアのペトログラード（現在のサンクトペテルブルグ）で始まった革命。二月革命でロシア帝政に代わった臨時政府を倒し、ボリシェビキを中心とする労働者、農民、兵士による評議会ソビエトに権力を集中させた。
- 5) 第二次世界大戦中、1941年6月のナチス・ドイツによるソ連侵攻に始まるドイツとソ連の戦争。1945年5月ドイツの降伏により終結した。
- 6) 馬岬孜・馬三成（1885～1938）ソ連内戦期（1918～1921）に活躍した東干族の英雄。カザフスタンアルマティ西北の曙光村で生まれる。1908年タシケント鉄道運輸中等專業学校を卒業後、タシケント鉄道局に勤務する。1918年ロシア共産党に入党。1920年東干騎兵団を組織し、内戦に参加し、多くの戦果を上げた。1932年ソ連ウズベキスタン共和国副主席となる。1938年「大粛清」により、刑死。1965年名誉回復。cf. 王国杰《东干族英雄马三成与苏俄三年内战》（胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 291頁-300頁）
- 7) 雅斯爾・十娃子（1906～1988）キルギスの東干族詩人。キルギス、フルンゼ市郊外騷葫蘆村出身。1923年タシケント師範学院で学ぶ。その間、東干語のアラビア文字による表記法を制定する。1931年東干族の最初の書面文芸作品である詩集『亮明星』を出版。1935年小説『裕福な光陰』を発表。また、東干語の語法と正字法の議論に積極的に参加した。キルギス科学アカデミー東干学分部學術委員会委員をとして、青年研究者の指導と養成を行う。また、キルギス作家協會書記を務めた。cf. 胡振华《我和东干族著名诗人雅斯爾・十娃子》（胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 134頁-150頁）
- 8) 穆哈買德・蘇尚洛（1923～1998）キルギスの東干族歴史学者。キルギス、フルンゼ市出身。1941年師範学校卒業後、東干族の村、米粮川村で小学校の教員となる。1950年国立師範学院を卒業し、ソ連科学アカデミー東方学研究所で学び、1953年からソ連科学アカデミーキルギス分院で研修に従事する。1969年からチュルク学東干学研究分部主任を務める。「東干人」「ソ連東干族」など、ソ連東干族の歴史に関する多くの著作がある。cf. 胡振华《穆哈買德・蘇尚洛与东干学》（胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 118頁-133頁）
- 9) 依里雅斯・優蘇波夫（1930～2005）カザフスタンの東干族歴史家。カザフスタンアルマティ市出身。1948年キルギス、フルンゼ市師範学校卒業。1953年カザフ大学歴史系卒業。カザフスタン科学アカデミー、全ソ連科学アカデミー東方学研究所で学んだ後、1958年から、キルギス科学アカデミ

- ーで研究に従事する。1974年から、カザフスタン科学アカデミーで研修を進め、1986年よりカザフ師範学院教授となる。「十月革命期の東干人」「十月革命前の七河地区の東干人社会経済状況の問題」「偉大なる大祖国戦争年代のソ連東干人」などの著作がある。cf. 胡振华《我和东干族历史学家依里雅斯·优苏波夫》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 151頁-153頁)
- 10) 優蘇甫・楊善興 キルギスの東干族言語学者。1909年生まれ。キルギス普爾熱瓦耳斯克付近の艾爾德克村出身。1930年までタシケント師範学院で学んだ後、フルンゼ市東干族学校で東干族言語課程を担当する。1937年からキルギス文化建設研究所で、キルギス語と東干語の研究に従事する。『現代キルギス語』(第1巻)、『ロシア語キルギス語辞典』や『ロシア語東干語辞典』の編集出版に携わった。また多くの研究論文を発表している。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)
- 11) 宗娃子・優蘇勞夫 カザフスタンの東干族言語学者。1911年生まれ。カザフスタンアルマティ市出身。師範学院卒業後、東干族の小学校、中学校国語の教員となる。1950年代より、カザフスタン学院ウイグル、東干学部勤め、東干語、ウイグル語の研究に従事する。『ウイグル語ロシア語辞典』の編集に従事する。また、東干族の言語の教科書編集に携わった。「東干語否定形式の表現方法の問題」、「東干語の重複」など東干族言語に関する多数の論文を発表している。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)。なお、胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》では、「叢娃子・優蘇勞夫」と漢字表記している。
- 12) 阿・カリ莫夫 東干族の言語学者。全ソ連科学アカデミー東方学研究所で東干族言語を研究する。「東干語新字母表案と音節記述規則」、「現代東干語数詞及び数詞付加成分の語法特徴と量詞」など多数の研究論文を発表している。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)
- 13) 穆哈買徳・依瑪佐夫 キルギスの東干族言語学者であり作家。1941年生まれ。キルギス、フルンゼ市郊外騷葫蘆村出身。国立キルギス大学語文系卒業後、騷葫蘆村の学校で東干族言語文学を教える。その後キルギス科学アカデミーで学んだ後、キルギス科学アカデミー東干学分部で研究活動に従事する。『東干語音声学』、『東干語正書法』、『東干語語彙概論』など多くの著作があり、教材の編集にも参加している。また、多数の研究論文を発表している。さらに短編小説集『小さなツバメ』を出版した。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)
- 14) 辛勞・勞姐兒 キルギスの東干族民俗学者。優蘇甫・楊善興夫人。キルギス科学アカデミー東方学研究所で研究に従事する。『東干族の装飾』『ソ連東干人の文化と習俗』などの著作がある。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)
- 15) 法提瑪・馬凱耶娃 キルギスの東干族文学評論家。キルギス女子師範学院で教鞭を執っている。「東干ソビエト文学の成立と発展」などの著作がある。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)
- 16) 依斯哈爾・十四兒 キルギスの東干族詩人であり文学評論家。キルギス科学アカデミー東干学分部において東干族文学の研究に従事する。詩集『私は歌いたい』などの著作を出版している。cf. 胡振华《中亚苏干族学者和作家诗人》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 113頁-117頁)
- 17) 穆哈買徳・烏瑪爾・潘舍夫 カザフスタンの東干族画家。カザフスタン江布爾市(現在の塔拉茲市)近郊の諾夫卡村出身。フルンゼ美術学校卒業後、モスクワ国立美術学院、ソ連美術学院大学院で学び、1982年に卒業し、フルンゼ市に帰り、創作活動を続ける。作品には、東干族の村の風景や村の人々を描いたものが多い。代表作に『東干諾夫卡風情』、『白楊』、『阿西の肖像』などがある。cf. 穆哈買徳・依瑪佐夫、拉什徳・优苏波夫/译:黄赛《穆哈買徳・烏瑪爾・潘沙耶夫——第一为东干族画家》(胡振华主編《中亚东干学研究》(2009、中央民族大学出版社) 45頁-59頁)

- 18) 拉什德・巴基劳夫 カザフスタンの東干族鑄造学者。1938年生まれ。カザフスタン江布爾州諾夫卡村出身。1961年タシケント工學院鑄造專攻卒業後、1968年から輕工業食品工業技術學院で教鞭を執り、その後、タラス国立大学教授となり、「材料学と構造材料技術」、「計量学、互換性と標準化」などの課程を担当する。多くの学術論文を発表している。cf. 穆哈买德・依玛佐夫、拉什德・优苏波夫／译：黄赛《东干族鑄造专家拉什德・巴基劳夫》（胡振华主編《中亚东干学研究》（2009、中央民族大学出版社）57頁-58頁）
- 19) 葉辛・依斯瑪依劳夫 キルギスの東干族作曲家であり、武術家、社会活動家。多くの東干風の歌曲を作曲している。また、1994年よりキルギス東干人協會会長を務める。2002年よりキルギス国立模範オペラバレエ劇場支配人。cf. 穆哈买德・依玛佐夫、拉什德・优苏波夫／译：黄赛《国家剧院总经理叶辛・依斯瑪依劳夫》（胡振华主編《中亚东干学研究》（2009、中央民族大学出版社）50頁-51頁）
- 20) 1938年～1945年まで青島市は日本の占領下にあった。
- 21) 馬学良（1913～1999）中国の著名な言語学者。山東省榮成県出身。1938年北京大學中文系卒業、1941年北京大學文科研究所研究生修了。中央研究員歴史語言研究所、中央大學、東方語專、北京大學で教鞭を執った後、1951年より、中央民族學院（現在の中央民族大学）少数民族語文系で教育研究活動に従事する。また、少数民族語言研究所所長、中国社会科学院少数民族文学研究所副所長などを歴任した。中国語と彝語をはじめとする中国少数民族言語を研究し、多数の著作がある。
- 22) 王均（1922～2006）中国の著名な言語学者。江蘇省南通市出身。西南聯合大學中文系卒業後、中山大學などで教鞭を執り、1950年より中国科学院語言研究所、少数民族語言研究所、民族研究所などで研究活動に従事する。その傍ら北京大學、中央民族學院で教育活動を行う。1984年より、中国文字改革委員會、国家語言文字工作委員會などで研究活動を行う。壮侗語族諸言語を中心とする中国少数民族言語や一般言語学、音韻論、言語政策を研究し、多数の著作を残している。
- 23) 原文は、「官方言語」としている。
- 24) 『キルギス共和国憲法』は、1993年施行された。
- 25) 『ウズベキスタン共和国憲法』は、1992年に採択されている。第4条に国語の規定等が見られる。
- 26) 原文は、「(VARIANT)」としている。
- 27) 原文は、「加学」（補講として学ぶ）としている。

キーワード：東干族 言語政策 バイリンガル

(Hu Zhenhua / INUZUKA Yuji)